

実績報告書

届出者	住所	大阪府貝塚市二色南町16番地	氏名	株式会社明治 関西工場長 古池 智彦
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		大阪府内に4工場が操業し、主に菓子・乳製品の生産処理及び販売を行っている。 (関西工場、関西アイスクリーム工場、関西栄養食工場、大阪工場、関西支社)		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	49,125 t-CO ₂	51,062 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	52,541 t-CO ₂	54,519 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.2%	-1.2%	-1.8%
削減率(平準化補正ベース)		-	0.3%	-3.2%	-1.6%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値(当工場の生産重量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

生産工場は生産重量(t)として統一しており、販売を行う関西支社については、原単位を算出不可能のため、電気使用量のみ合算している。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

基準年度の生産重量:102.2%に対し、原油換算:104.6%・CO₂排出量:103.9%と使用量が増加傾向となっている。昨年度、エネルギー使用量の2%削減と目標設定をした省エネ活動に取り組んでおり、ユーティリティ設備や生産ラインの運用改善、投資による省エネ改善などを推進し、各事業所ともに目標を達成しているが、物流変動によるエネルギー使用量増加の影響、吸収式冷凍機やエアコンプレッサー設備など、老朽化により効率が低下している設備も増えていることが考えられる。

引き続き、生産休止ラインのユーティリティ供給停止や放熱ロスなどの固定的なエネルギー使用量削減を行っていくとともに、能力診断等による老朽化の検証と更新の検討を進める必要があると考える。

(2) 推進体制

定期的にエネルギー使用量に関する会議を開催し、現状把握や原因追及及び対策に向けた取り組みを行っており、温室効果ガス排出量削減に繋がるよう管理している。
各事業所でエネルギー使用量に対する省エネ目標を設定し、目標達成に向けた省エネ活動を展開し、定量的なエネルギー使用量の削減に取り組んでいる。これに加え、老朽化した設備の能力診断を行い効率の低下した設備について更新の検討を進め、固定ロスの改善に取り組んでいきたい。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西工場	コード (1125) 蒸気配管の保温	蒸気配管の保温不足部位に保温を施し、放熱ロス (燃焼ロス) 低減を図る。 ★削減効果: 年間8t-CO2 ☆H28年8月: 実施 削減: 56.4t-CO2	2016 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	関西工場	コード (1211) 高効率ボイラーへの更新	関西工場新設時のボイラーを最新機種へ更新する。 ★削減効果: 年間337t-CO2 ☆H27年12月: 実施 削減: 224t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) 高効率エアーコンプレッサーの導入	高圧エアーコンプレッサーを最新機種に更新し、台数制御を行い省エネを図る。 ☆H28年9月: 実施 削減: 36.6t-CO2 ☆H29年 : 継続 削減: 74.4t-CO2	2016 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	関西工場	コード (1113) 殺菌機付帯設備の適性化	殺菌機付帯設備を削減し、電気使用量の低減を図る。ホモゲナイザーレス化 ★削減効果: 年間88t-CO2 ☆H27年7月: 実施 削減: 22.7t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1218) 照明設備分割による電力削減	空調機械室2 照明切り分け 部屋照明回路を分け、部屋手前半分のみ照明を付けるよう変更 ★削減効果: 年間0.24 t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
		平準化				
6	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1113) 冷却能力適正化による電力削減	1、2急凍庫内温度適正化 急凍内の温度を-40から-38℃設定に変更し適正化を行う。 ★削減効果: 年間26 t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2015 年度
		平準化				
7	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1215) インバーター化による電力削減	過冷却ユニット冷却水ポンプ INV化 現在、バルブを絞って流量調整しているが、INVを導入して調整する。 ★削減効果: 年間6.7t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
8	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1112) 仕込みロスによるエネルギー削減	仕込みロス削減 ロスタップ作成により仕込みロスを削減し、追加仕込みエネルギー削減。 ★加糖卵黄抽出時ロスに焦点を	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
9	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1125) 放熱ロス対策	パレタイズ室除湿エア給気 除湿エア給気を行うことで霜付き防止し冷凍機負荷を低減。 ★削減効果: 26.9t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				
10	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1125) 放熱ロス対策	天井裏蒸気配管保温 天井裏150A、100Aの配管吊り部を保温することで省エネを図る。 ★削減効果: 60t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2017 年度
		平準化				
11	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード (1121) 蒸気送気圧力最適化による燃料削減	高圧蒸気圧力を要求しない生産設備停止時に、自動で送気圧力を下げて省エネを図る。 ★削減効果: 年間96.7t-CO2 実績: 年間96.7t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
12	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード (1113) 加温設定値最適化による燃料削減	RO設備は原水を25℃まで加温することで透過率向上を図っていたが、20℃に加温設定を変更し、蒸気使用量を削減する。 ★削減効果: 年間2.73t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
13	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード (1121) 蒸気送気圧力最適化による燃料削減	空調冷水用吸収式冷凍機の冷却水量が過剰だったため、最適な値になるようインバータ設定周波数を変更する。 ★削減効果: 年間19.9t-CO2	2015 年度
	レ	人工排熱				2016 年度
		平準化				
	レ	GHG排出		コード (1113) 滅菌機の水運転待機時に、系内流量を自動で半		2015 年度

14	レ	人工排熱	関西栄養食工場	加温設定値最適化による燃料削減	減させ、以って熱源負荷および使用電力量を削減する。 ★削減効果：年間15.2t-CO2 実績：年間15.2t-CO2	～ 2016 年度
		平準化				
15	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード (1126) インバータ設定最適化	C I Pブロー水とC I P送りをプレートで熱交換させ、排水に捨てていた熱を回収する。 ★削減効果：年間9.7t-CO2 実績：年間9.7t-CO2	2015 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
16	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード (1122) 不要な加熱・冷却の停止	中間品検査室が無人な時間帯に、自動で換気を停止させる。 ★削減効果：年間3.7t-CO2 実績：年間3.7t-CO2	2015 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
17	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明設備のLED化	工場内の照明設備をLED照明に更新する。 (年間30t-CO2削減見込み) H27年度：実施 4t削減 H28年度：実施 14t削減 H29年度：実施 5t削減	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
18	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 高効率ブロワーへの更新	排水処理場の曝気ブロワーを高効率ブロワーに更新する。 (年間188t-CO2削減見込み) H27年度：検討 H28年度：実施 84t削減 H29年度：実施 54t削減	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
19	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 高効率冷凍設備への更新	生産プロセス用の冷凍設備を高効率タイプに更新する。 (年間47t-CO2削減見込み) H27年度：検討 H28年度：実施 40t削減 H29年度：実施 10t削減	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
20	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 用水ポンプ高効率モーターへの更新	用水ポンプのモーターを高効率モーターに更新する。 (年間47t-CO2削減見込み) H27年度：実施 26t削減 H28年度：未実施	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
21	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1211) 高効率ボイラーへの更新	小型還流ボイラーを高効率タイプに更新する。 (年間49t-CO2削減見込み) H27年度：実施 42t削減 完了	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
22	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 圧縮エア供給の適正化	生産設備への圧縮エア供給を電気制御により適正化する。 (年間26t-CO2削減見込み) H27年度：検討 H28年度：実施 24t削減 完了	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
23	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 保温ヒーター停止	未生産時にチョコ生地保温用ヒーターを停止できるよう設備を改善する。 (年間31t-CO2削減見込み) H27年度：実施 5t削減 完了	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
24	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1216) 高効率チラーユニットへの更新	ガス吸収式冷温水機を高効率チラー(電気式)に更新する。 (年間112t-CO2削減見込み) H27年度：検討 H28年度：実施 10t削減 完了	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	関西支社、関西工場、関西アイスクリーム工場、関西栄養食工場	コード (2123) 余分な荷物を積まない	車内の不要な荷物は帰社時に持ち帰る	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	関西支社、関西工場、関西アイスクリーム工場、関西栄養食工場	コード (2114) 日常点検の徹底	日常点検(ランプ、タイヤの空気圧、エンジンオイル)、及びオイルの定期的な交換実施 ※継続実施	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
3	レ	GHG排出	関西支社、関西工場、関西アイスクリーム工場、関西栄養食工場	コード (2123) 不要なアイドリングを慎む	待機スペース等を利用し、こまめにエンジンを切る	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
4	レ	GHG排出	関西支社、関西工場、関西アイスクリーム工場、関西栄養食工場	コード (2123) 急のつく運転はしない	適切なシフトアップとエンジンプレーキの励行 ※継続実施	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
5	レ	GHG排出	関西支社、関西工場、関西アイスクリーム工場	コード (2123) 安全速度での走行	安全速度(グリーンゾーンでの回転数)での走行の徹底 ※継続実施中	2015 年度 ～
		人工排熱				

5			アイスクリーム工場、関西栄養食工場	女王速度での走行	※経路未定中	2017 年度
6	レ	GHG排出	関西支社、関西工場、関西アイスクリーム工場、関西栄養食工場	コード (2123) 適切なエアコンの使用	エアコンの温度、風量を抑える	2015 年度
	レ	人工排熱				～
						2017 年度

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区丸の内2-1-1	氏名	明治安田生命保険相互会社 代表執行役社長 根岸 秋男 印
特定事業者の主たる業種		67保険業（保険媒介代理業、保険サービス業を含む）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		生命保険の販売を業としており、販売拠点としての営業所の他に資産運用目的で賃貸ビルを保有しております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	11,771 t-CO ₂	11,555 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	14,198 t-CO ₂	12,830 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	1.2 %	0.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	8.8 %	7.7 %	8.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の不動産の保有延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>当社使用のエネルギー量は、保有不動産面積により変動してしまう為、t-CO₂/延床面積の基準でトータル削減率1%を目標として掲げています。</p> <p>対策計画書上の最終年度である平成29年度の実績は、計画的に照明・空調等の設備更新を実施した他、全社的な夏期・冬期の節電強化月間をはじめとする各種諸対策を講じたことにより、対基準年度比で0.7%削減となりました。</p>
<p>平成28年度対比では、削減率0.6%増となりましたが、目標削減率の1%に及ばない結果となりました。次年度以降も継続的な啓蒙活動を実施し、また省エネに帰する設備投資も順次検討していきます。</p>

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・経営層をはじめ、CSR推進部署、不動産運用・管理部等で省エネに資する諸対策を展開 ・諸対策として、設備更新等の局面にて、設備の受電ロスの解消等をめざすべく、高効率機器の検討・導入しているほか、自社・テナントへの省エネに対する啓蒙・促進活動を積極的に推進中 ・なお、電力削減に向けた対策の一環として、全社的にBEMSを設置し、夏季・冬季を中心とした電力デマンド制御による効率的な電力削減を継続実施
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全ての事業所	コード (1218) 省エネタイプの 照明設備の導入	省エネ効果の高い照明設備 (Hf蛍光ランプ) を導入していく。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	全ての事業所	コード (4999) 階段の積極的な 利用	上下2フロアでの行き来には、エレベーターではなく階段を積極的に利用を促進	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	全ての事業所	コード (1216) 空調機の省エネ タイプの導入促進	空調機の更新時には、省エネタイプの空調機へ順次導入していく。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	全ての事業所	コード (4210) 日射遮蔽フィル ムの設置	夏季における営業所内の気温上昇を抑制する為、窓に日射遮蔽フィルムの設置	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	全ての事業所	コード (1217) 換気装置へのCO2 センサー取付	換気装置へのCO2センサー取付による、換気装置の電力消費低減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	大阪御堂筋ビル	コード (1218) 共用廊下等にお ける照明のLED化	共用廊下等における照明をLED化することで電力消費低減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	大阪御堂筋ビル	コード (1218) 誘導灯のLED化	誘導灯更新時に、節電効果が見込めるLEDタイプへの更新実施。 平成24年度工事完了	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	大阪梅田ビル	コード (1218) 共用廊下等にお ける照明のLED化	共用廊下等における照明をLED化することで電力消費低減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
9	GHG排出	大阪梅田ビル	コード (1218) 誘導灯のLED化	誘導灯更新時に、節電効果が見込めるLEDタイプへの更新実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
10	GHG排出	全ての事業所	コード (1218) 電力消費の見える 化促進	電力の見える化を計り、目標デマンド値を超過しそうな場合に本社操作より、電力消費の抑制を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全ての事業所	コード (2122) 公共交通機関等 を積極的に活用	社内車に関しては出来る限り公共交通機関を利用するように心掛ける。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
2	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	積極的に低燃費車を導入することにより、エネルギー削減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	名古屋市東区葵2丁目12-8	氏名	名鉄運輸株式会社 取締役社長 内田 互
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>当社は、北は北海道から南は沖縄まで全国ネットを構成する「名鉄運輸グループ」の中核となっており、路線・区域・宅配・引越・流通倉庫・航空貨物など一貫輸送体制による総合物流事業を展開し、多様化するお客様の物流ニーズにお応えしています。当社の環境方針は、輸送サービスの提供という事業活動から生ずる環境への種々の影響を低減することが社会的責任の一つと認識し、「環境にやさしい名鉄運輸」の実現のために社員一人ひとりを含めた社内全組織の連携により、環境問題に積極的に取り組んでまいります。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	7,864 t-CO ₂	7,673 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	8,005 t-CO ₂	7,735 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	3.7 %	5.0 %	1.9 %
		削減率 (原単位ベース)	%	%	%
削減率 (平準化補正ベース)		-	6.1 %	2.5 %	3.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>こまめに電気を消す。</p>

(2) 推進体制

車両の整備管理の徹底に取り組んでいます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
	平準化				年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	全て	コード (2112)	節電・省エネ	2015 年度
	GHG排出				～
	人工排熱				2016 年度

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府柏原市円明町 8 8 8 - 1	氏名	株式会社 メイワパックス 代表取締役 増田 淳
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		軟包装材製造販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	6,345 t-CO ₂	6,374 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,786 t-CO ₂	6,767 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%	
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	3.2 %	-2.4 %	0.3 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	4.0 %	-1.7 %	1.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(加工メーター)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>生産数量が増加したがエネルギー使用量も増加したが原単位はほんの少し改善した。製品品質レベル向上のため工場内環境を向上させたため軽微な改善にとどまった。</p>
--

(2) 推進体制

環境推進委員会を毎年実施し部署ごとの原単位を把握し省エネルギーを推進する。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	本社・工場	コード (1113)	管理標準の徹底	2015 年度 ~ 2018 年度
	レ 人工排熱		管理標準の徹底		
	平準化				
2	レ GHG排出	本社・工場	コード (1199)	夏季ピークの電力量を抑制するために生産機械の稼働を生産量に合わせ柔軟に調整する。	2015 年度 ~ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	全事業所	コード (5112)	老朽化により使えなくなった蛍光灯、水銀灯を順次LEDへ更新していく。	2015 年度 ~ 2018 年度
	レ 人工排熱		LED照明への取り換え。		
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	本社・工場	コード (2114)	エコドライブを実施し省エネに努める。	2015 年度 ~ 2018 年度
	レ 人工排熱		エコドライブの推進		

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都中央区八重洲2-7-15	氏名	株式会社メディセオ 代表取締役 長福 恭弘
特定事業者の主たる業種		55 その他の卸売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医薬品、医薬部外品、試薬、医療機器、介護用品等に関する総合卸売業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	4,283 t-CO ₂	4,143 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,283 t-CO ₂	4,512 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	3.5 %	3.2 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	-4.8 %	-5.6 %	-5.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>【自動車分野】</p> <p>①顧客数・配送量が増加している中、車両増加台数を昨年度比で1台増に控えた。 ②結果的に1台当たりの配送効率を上げた為、走行距離が伸び、昨年度より燃料使用量が増加。 ③引き続き、低燃費である軽自動車や、環境性能の高い普通車への入替を積極的に行う方針。</p>
<p>【産業・業務分野】</p> <p>全社的に節電意識を持たせ、不要時の電源オフを徹底。しかしながら、全体の電力使用量が増し、前年比3.3%増加となった。</p>

(2) 推進体制

各事業所に対して、省エネルギー活動推進の呼びかけを実施する。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1215) 不要時の電源オフ	不要時の事務機器や照明器具の電源をオフにする	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1218) 省エネ照明設備の導入	省エネ効果のある照明設備の導入を順次進める	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	南大阪A L C	コード (1215) デマンド監視装置導入	デマンド監視装置を導入し、ピーク時の電力抑制実施。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	リース車両更新時に低燃費車を導入する。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2226) 軽自動車への切り替え	走行距離の少ない車両について、リース車両更新時に軽自動車へ切り替える。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブ啓発ビデオ作成	全車両においてエコドライブを浸透させるべく、社内イントラネット上に自社で製作した啓発ビデオを準備。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
4	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2114) 定期車両点検の徹底	全ての車両で3ヶ月毎の定期点検実施を徹底。タイヤ空気圧の適正化等、良好な整備状態を維持。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策
